

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1132.50	2021/3/8
High	1128.80	2021/3/11
Low	1123.30	2021/3/8
Close	1208.88	2021/3/12

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3945.00	2021/3/8
High	4292.00	2021/3/11
Low	3922.00	2021/3/8
Close	4238.00	2021/3/12

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2344.75	2021/3/8
High	2381.50	2021/3/12
Low	2280.00	2021/3/10
Close	2374.00	2021/3/12

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	8160.00	2021/3/8
High	8335.00	2021/3/8
Low	7949.00	2021/3/10
Close	8314.00	2021/3/12



ニュースエクスプレス

白金、3年連続供給不足
今年見通し、車の触媒向け25%増

貴金属のプラチナ（白金）の国際調査機関ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）は2021年の白金需給が2トンの供給不足になるとの見通しを公表した。供給不足は3年連続だが、生産が回復し、不足幅が過去最大だった20年（29トン）からは大幅に縮小する。需要面では景気回復で自動車向けが大幅に増える一方、投資向けは半減する見通しだ。

21年の総供給量は20年比17%増の247トン。20年は主産地の南アフリカでの新型コロナウイルスの感染拡大や鉱山最大手アングロ・アメリカン・プラチナの工場トラブルで供給が大きく減った。21年はこれらの要因が薄れ、供給は大幅に回復する見込み。

一方、21年の需要見通しは同3%増の249トン。自動車生産の急回復で触媒向けが25%増の93トンと大きく改善。宝飾品は13%増の64トン、工業向けも10%増の68トンと軒並み増える見込みだ。

ただ、地金などの投資需要は同51%減の24トンと過去最大（48トン）だった20年比で半減する見込み。価格上昇に伴う利益確定売りの動きが予想されるためだ。もっとも、地金やコインなどの需要は過去5年平均比で4割程度高い水準を維持する。

プラチナはガソリン車触媒で競合するパラジウムの価格高騰に伴う原料の代替や、世界的な脱炭素化の加速で燃料電池車（FCV）や水素製造向けなどの需要増も期待されている。WPICのトレバー・レイモンド氏は「パラジウムからの代替需要は今後4年間で31トン、燃料電池向けの新規需要は今後10年間で31トン増える」と見込む。

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ069859360Q1A310C2QM8000/?unlock=1>

中国自動車販売、2月は前年比365%増 11カ月連続プラス

中国汽车工业协会（CAAM）のデータによると、2月の中国の自動車販売台数は前年比365%増の146万台だった。増加は11カ月連続。中国の自動車業界は、世界に先駆けて新型コロナウイルス危機から回復している。

前年同月の自動車販売は、新型コロナ流行に伴う移動制限で、大きな打撃を受けていたが、昨年第2・四半期から販売が上向き始めた。

トヨタと吉利汽車は2月に3桁の販売増を記録した。

新エネルギー車（NEV）の販売は585%増の11万台。新エネルギー車には電気自動車、プラグインハイブリッド車、燃料電池車が含まれる。

中国政府は、大気汚染対策の一環で環境対応車の普及を促進しており、国内では上海蔚来汽車（NIO）、小鹏汽車（Xpeng）、米テスラなどの電気自動車メーカーが生産能力を拡大している。

CAAMは今年の販売台数を約4%増と予想する。

独フォルクスワーゲンや米ゼネラル・モーターズ（GM）など海外自動車メーカーを操業休止に追い込んでいる車載半導体不足について、

CAAMは今年初めから一部中国メーカーの生産に影響を与え始める可能性があるとして警告していたが、11日のオンライン会見では、業界の連携や政府の支援のおかげで第2・四半期には影響が緩和するとの見通しを示した。

<https://jp.reuters.com/article/china-autos-idJPKBN2B3000>

膨らむ環境需要、白金族不足が深刻に
排ガスや水素生成向け触媒で注目、コスト高が足かせ

貴金属のプラチナ（白金）の副産物として産出する白金族金属の高騰が止まらない。ガソリン車の排ガス触媒に使うロジウム、電子部品の製造や水素生成の際の触媒などに使うイリジウムは過去最高値圏での値動きが続く。昨年後半から急騰に拍車がかかった。もともとの供給の少なさに加え、世界的に温暖化防止策が進み需要が拡大するとの観測も加わり、需給が急速に引き締まっている。

金融情報会社のリフィニティブによると指標のロンドン価格は5日時点でロジウムが1トロイオンス2万9190ドル、イリジウムが同5090ドルとそれぞれ過去最高値を更新した。高騰が始まったのはここ数年で、5年前の2016年ごろまでの価格と比較すると、ロジウムは42倍、イリジウムも10倍になった。

大幅高は環境対策で急増する需要に供給量が見合っていないことが主因だ。ロジウムやイリジウムの年間生産量は主産物である白金の200トン程度に対し、ロジウムで約25トン、イリジウムは約7〜8トンにとどまる。米地質調査所によるとロジウムやイリジウムなどを含む白金族の埋蔵量の91%が南アフリカに偏在。ロジウムやイリジウムはなかでも深度が深く生産コストが高い鉱脈に集中し、近年開発が進む低コストの別の鉱脈では含有量が少ないとされる。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODJ0391R0T00C21A3000000/>

WPIC直近の活動

- WPICは2021年3月10日ロンドン時間午後2時（日本時間夜11時）より2020年第四四半期のクォーターレポートを発表しました。

https://platinuminvestment.com/files/521293/WPIC_PR_PQ_Q4_2020_2021_0310_JA.pdf

- 上海黄金取引所（SGE）と日本取引所グループ（JPX）が合同主催する「日中貴金属市場について」のオンラインセミナーに3月10日に行われた。SGEとJPXの代表者がそれぞれ中国と日本の貴金属市場の概要と、取引、配送、清算、その他の事業を含む貴金属製品を紹介した。両市場に積極的に参加しているICBCスタンダード銀行の代表は、中国と日本の貴金属市場間の見通しと潜在的な取引機会を共有した。

https://www.en.sge.com.cn/eng_news_News/10000254



(@wpicjapan)